

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市なかよし学園		
2 指定管理者	社会福祉法人 なのはな会		
3 指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで（5年間）		
4 施設の利用状況	《利用者数》		
	・令和2年度	5,392人	（前年度比98%）
	・令和元年度	5,517人	（前年度比105%）
	・平成30年度	5,276人	（前年度比89%）
5 収支の状況	《事業》		
	児童発達支援事業		
5 収支の状況	《費用》		
	・指定管理者に支払った費用	89,429千円	(92,209千円)
	・その他市が負担した費用	6,972千円	(6,573千円)
	《収入》		
	・使用料収入	71,717千円	(70,995千円)
	・その他収入	0千円	(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 令和3年2月、指定管理者の協力のもと、障害者支援課で利用者アンケートを実施した。		

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、職員も設置目的を適切に理解し、施設運営にあたっている。 利用者個々の特性に寄り添った療育を工夫して行っている。 近隣の特別支援学校や子育て支援機関等と連携し、地域支援の充実に積極的に取り組んでいる。	42/42
II 施設の運営管理体制	事業計画に基づいた運営がなされている。経理書類の作成及び通帳印鑑の管理についても適正に行われている。 また、各種マニュアルを整備しているほか、毎月の避難訓練に加え、近隣の支援学校や社会福祉施設との合同訓練を実施しており、利用者の安全に配慮した運営に努めている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	冬は廊下と室内の寒暖差が激しいため、保護者より廊下の暖房設備設置を要望する声があがっているものの、清掃・衛生管理・施設の保守点検は適切に行われており、利用者が快適に利用できる環境整備に努めている。	24/24
IV サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、定期的な職員会議や研修により人材育成を図るとともに、情報共有に努め職員全体でのサービス向上を目指している。 利用児だけでなく、保護者やきょうだい児支援のニーズの把握に努め、利用者からの要望や相談に適切に対応するための体制を整えている。	27/27
V 施設固有の基準	個別支援計画について、利用者1人1人の障害特性に寄り添い、詳細に作成することに加え、様式の見直しを行い、支援者間での情報共有がしやすくなるよう工夫するなど、より効果的な支援の提供に努めている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

### 三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人なのはな会）による自己評価》
<p>当事業所は、就学前の単独通園及び集団生活の体験の場として療育が必要な児を障がいの種別やその状態像を問わず受入れを実施した。幼稚園や保育園での不適応があった児から、医療的ケアが必要な児まで一人ひとりの子どもたちが愛され、認められる経験から自己肯定感を持てる支援を心がけてきた。今年度は新型コロナウイルスが猛威を振るったがその中でも支援を止めず、児が安心して豊かなあそびを通して様々な体験や経験ができる場の提供、保護者家族にとっては安心して送り出せる発達支援の場として感染防止対策の徹底を行ってきた。</p> <p><b>【発達支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な障がい特性を踏まえながらも、障がい児である前にこどもであるという視点から小集団の中でこども達が自分らしく過ごすことができ、多様性が認められる支援の実践を行った。又、保育療育の根拠として、児童発達支援ガイドラインに基づき、改めてアセスメント様式を作成し、育ちのステップを支援者が共通した視点で捉え支援を行ってきた。</li> </ul> <p><b>【家族支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が安心して子育てができるよう緊急時の預かり保育などは保育時間と併せ最大8時間の支援を実施した。コロナ禍だからこそ、抱える不安に対して保護者の孤立を防ぐために保護者研修会や面談を定期的実施してきた。</li> </ul> <p><b>【地域支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、乳幼児健康診査が滞ったことで子育ての不安を抱える保護者が地域で多く散見された。隣接する仙台市あおぞらホームと共に、専門職を交えのびすくや地域の認定こども園との定期的な事例検討を実施し、地域の子育て支援者との協働を図った。</li> </ul>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。</p> <p>児童の障害種別や特性に応じたきめ細かい療育を行う工夫がなされている。また、近隣の特別支援学校等、地域の関係機関との情報交換や情報共有に取り組むほか、合築のあおぞらホームと合同で子育て支援機関からの相談に対応している。加えて、専門職の配置を生かし、地域の子育て支援機関と事例検討会を行うなど、地域の中で児童発達支援センターとして求められる役割を果たすため、積極的に地域支援に取り組んでいる。</p> <p>保護者支援においては、保護者との個別面談や勉強会を定期的開催するなど、保護者の不安や悩みに寄り添い、相談しやすい体制を整えている。</p> <p>以上により、利用児童への発達支援だけでなく、家族支援や地域支援を含め、安定した質の高い支援を提供し、良好で円滑な管理運営を行っていることから、総合的には高く評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課